

平成 22 年 6 月 21 日現在

研究種目：特定領域研究
研究期間：2005～2009
課題番号：17012024
研究課題名（和文） がん研究の推進、交流および人材養成を支援する中核拠点
研究課題名（英文） The core unit supporting research, communication, network and young scientists in the cancer research field
研究代表者 中村 卓郎 (NAKAMURA TAKURO) 財団法人癌研究会・癌研究所 発がん研究部・部長 研究者番号：00180373

研究成果の概要（和文）：中核拠点支援班は、がん特定領域全体の研究が発展する活動を行った。若手支援委員会・国際交流委員会・広報企画委員会・青少年・市民公開講座実施委員会の各事業についての中核拠点を組織し、若手研究者の育成や活性化、研究者の海外派遣、二国間交流事業、がん研究の広報活動、青少年や一般市民に対する啓蒙活動について円滑な運営を行なった。

研究成果の概要（英文）：The core unit (Chukaku Kyoten) supported researches in the priority area for cancer research. The unit consisted of committees for support of young scientists, international affairs, public relations and youth education, and promoted research activities of young scientists, traveling of researchers to abroad, international workshop, publication and internet service of research activities and youth education for cancer.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2005 年度	117,069,024	0	117,069,024
2006 年度	46,900,000	0	46,900,000
2007 年度	53,861,764	0	53,861,764
2008 年度	46,900,000	0	46,900,000
2009 年度	46,900,000	0	46,900,000
総計	311,630,788	0	311,630,788

研究分野：病理学・分子遺伝学

科研費の分科・細目：その他

キーワード：国際交流・若手支援・広報支援・青少年育成

1. 研究開始当初の背景

中核拠点支援班は、平成 13-15 年度文部科学省がん特定研究領域 (C) における研究課題「がん研究の総合的推進に関する研究」の一部、「国際学術研究交流委員会」、「若手研究者の育成と

研究支援のための委員会」を引き継ぐものとして計画された。平成 13-15 年度がん特定研究領域では、がん研究の推進を目的として、各年度のがん特定全体の「研究組織冊子」、「がん特定研究報告書集録」、がん特定ニュースの発行、独

自のホームページの作成、北米およびヨーロッパなどへの研究者派遣、二国間がんワークショップの開催、若手研究者ワークショップの企画・開催、若手研究者に対する共同研究支援、若手研究者の国内派遣を行なった。これらの事業はそれぞれ独立して行なわれており、効率的な運営のため一本化が望まれていた。

2. 研究の目的

中核拠点支援班は、今後の我が国のがん研究を推進させるために、がん特定領域研究組織が各研究者に対して支援活動を行うことを目的とする。具体的には4委員会活動から構成されていて夫々の目的は以下のものである。

(1)国際交流委員会はがん研究にかかわる国際共同研究・情報交換を推進する。

(2)若手支援委員会はがん研究をさらに発展させるのに必要な新たな発想を持つ若手研究者の育成を図るため、若手研究者間の切磋琢磨とネットワーク構築を目指したワークショップならびに共同研究支援を行う。

(3)広報・企画委員会は公開シンポジウムの企画やがん特定研究組織内で種々の広報活動を行うことによって本領域の研究成果を広く社会に発信し、領域内での活動を研究代表者・分担者に伝えることによって本研究組織の活動の効率化と活性化を図る。

(4)青少年・市民公開講座実施委員会はがん研究の重要性・おもしろさを特に将来の研究をになう高校生や大学生に広く伝え、最新の研究成果をわかりやすく一般の方に発信する。

3. 研究の方法

(1)国際交流委員会

第一線の研究者数十名を欧米の先進研究室に派遣する。研究者は、派遣先でセミナーを行って研究成果を発表し、情報交換と国際共同研究の推進に努める。2国間のワークショップとしては、日中、日韓のがんワークショップを中国

と韓国においてそれぞれ開催する。

(2)若手支援委員会

若手支援委員会は、年1回の若手ワークショップの企画・開催、若手研究者に対する共同研究の支援を行う。若手ワークショップは、がん特定領域から募集した若手研究者全員が自分の研究結果を発表し、十分な討論を行う。ワークショップ期間中芽生えた若手研究者間の共同研究のアイデアを積極的に支援し、優れた提案については研究費を支給する。

(3)広報企画委員会

公開シンポジウムを行う。広報に関しては現在ホームページと電子メール配信、研究組織や研究報告集などの発行によりがん特定領域に所属する研究者に情報伝達を行う。

(4)青少年・市民公開講座実施委員会

一般市民を対象としたがん研究の講演会を開催する。日本各地の高等学校にがん特定研究者を派遣してがん研究に関する出前授業を行う。

4. 研究成果

中核拠点支援班は、がん特定領域全体の研究が発展する活動を行った。具体的には、若手支援委員会・国際交流委員会・広報企画委員会・青少年・市民公開講座実施委員会の各事業についての中核拠点を組織し、その事務局を(財)癌研究会・癌研究所に設置して各委員会の円滑な運営を図った。

若手支援委員会では、毎年9月初めに長野県蓼科において若手シンポジウムを開催した。がん特定5領域に所属する若手研究者が平均80名参加し、参加者全員による研究成果の発表(口演及びポスター)があり、活発な質疑応答や情報交換が行われた。シンポジウム参加者を中心に若手研究者同士の共同研究の立案を募集し、選考の結果優秀な提案に対して試薬購入等の支援を行った。

国際交流委員会では、日独・日中・日韓の各がんワークショップを開催した。日独ワークショップは隔年で、日中と日韓は毎年行なわれ、開催地は日本と相手国と交互に選ばれた。何れのワークショップにおいても日本側参加者はがん特定5領域の研究代表者を対象とする公募により採択され、各10名程度の研究者が参加し研究成果を発表した。また、研究者個人の海外派遣事業として公募を行い、海外の学会参加や国際共同研究を行う目的で渡航する研究者5～10名を選び旅費等の支援を行なった。

広報企画委員会ではがん特定領域研究のホームページ (<http://gantoku3.umin.jp/>) を整備し研究者に対する広報活動を続けた。また、所属する研究者が外部メディアに発表した事例をまとめ広報した。

青少年・市民公開講座実施委員会は、合計5回の青少年・市民公開講座を開催し、高校生を中心とする多数の聴衆が参加して好評を博した。また、各地の高校に研究者を講師として派遣する出前授業を行った。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

中核拠点支援班は、がん特定領域全体の支援活動を行うことを目的としており、本支援活動自体はがん研究を実施するものではないため、研究発表はない。

[雑誌論文] (計0件)

[学会発表] (計0件)

[図書] (計0件)

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：

国内外の別：

○取得状況 (計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

[その他]

ホームページ

<http://gantoku3.umin.jp/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

中村 卓郎 (NAKAMURA TAKURO)
財団法人癌研究会・癌研究所
発がん研究部・部長
研究者番号：00180373

(2) 研究分担者

今村 健志 (IMAMURA TAKESHI)
財団法人癌研究会・癌研究所
生化学部・部長
研究者番号：70264421
宮園 浩平 (MIYAZONO KOUHEI)
東京大学・大学院医学系研究科・教授
研究者番号：90209908
(H20～H21：連携分担者)
石川 冬木 (ISHIKAWA FUYUKI)
京都大学・大学院生命科学系研究科・教授
研究者番号：30184493
松田 道行 (MATUDA MICHUYUKI)
京都大学・大学院医学研究科・教授
研究者番号：10199812

(3) 連携研究者

()

研究者番号：